教育広報

きゃんぱすだより

播磨小学校３年生

チャレンジするって楽しい！

11月21日、ジブラルタ生命が特別協賛する「ドリーム・スクール・キャラバンストリートダンス教室」を3年生に実施しました。当日は、播磨小学校の体育館がエアコン工事のため、播磨南小学校の体育館をお借りしました。たくさんの保護者にも見守っていただき、ダンス教室を行うことができました。

子どもたちに初めてこの教室のことを知らせたとき、「ダンス教室ー？楽しそう！」という嬉しそうな様子と「ダンスかぁ…」という不安そうな様子、どちらも見られました。ただ、この教室の目的は、「子どもたちにチャレンジをする楽しさを知ってもらうこと」です。ダンスを教えてもらい、一つずつ動きをマスターしていくこと。チームのメンバーとアイデアを出し合うこと。みんなの前で発表すること、この教室にはたくさんの『チャレンジ』がありました。インストラクターの先生は、『チャレンジ』を促す中で、ずっと同じ言葉を子どもたちにかけていました。それは、「失敗したっていい！いろいろやってみよう！」です。『チャレンジ』には失敗がつきものです。友達とぶつかる時もあります。しかしそれを乗り越えて、「チャレンジ』を終えた子どもたちの表情には、不安は一切なく、充実感や達成感で溢れていました。

今回の教室で学んだ「チャレンジする楽しさ」は、きっと子どもたちの心の中に残ることでしょう。子どもたちの成長はこれから先もまだまだ続きます。これからも子どもたちが安心して『チャレンジ』できるよう、学校・家庭・地域が一体となって応援していければと思います。

▲一つずつ動きをマスターしていく

▲充実感と達成感に満たされた

まちづくりアドバイザーがお届けする まちアド通信

協働推進課住民協働係 ☎079-435-2364

ひろがる多様な居場所づくりとつながりづくり

播磨町では令和6年に内閣府が展開する地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業に指定されました。それをきっかけに町内のいろんな場所での居場所づくりがひろがっています。

ここ数年、播磨町では色んな場所で「居場所づくり」が進んでいます。例えば、自治会公民館を使った活動や空きスペースを使った活動など様々なものがあります。町内に4つあるコミセンでもそうした活動がひろがっています。例えば、西部コミセンでは毎週木曜日にコミセンひろばとして、誰でも来られる居場所をひらいています。また東部コミセンでも月1回程度コミセンひろばが開催されています。そうした機会に限らず中央公民館、野添コミセン、南部コミセンもいつでもだれでも来れるスペースがあり、ちょっと友達と会ったり、打ち合わせをしたりするときに使われています。こうした居場所が町内の至るところにひろがっているのが播磨町の大きな特徴の一つになりつつあります。各施設の情報は施設ごとにあるSNSなどでご確認ください。また先日開催された行政内部の孤独孤立対策推進委員会（各課長を中心とした会）でも、「つながりづくりが大事」という話がたくさん話され、地域も行政もつながりづくりが一つのキーワードになっています。自分でも居場所をはじめてみたい、ちょっと気になるという人はぜひどこかの居場所に顔を出してみてください。

▲西部コミセンのひろばの様子

【まちづくりアドバイザーとは】　播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。

保健師だより おげんきですか？

知ってほしい里親制度

問 こども課家庭支援係　☎079-435-2362

こども課の保健師は、妊娠期から子どもが18歳を迎えるまで切れ目なく支援ができるように、健診を行ったり、相談に乗ったりしています。これは、子どもが安心できて安全が守られている生活を送ることができるようにと考えていることによります。

その支援の一つとして、さまざまな事情により家族と一緒に暮らすことができない子どもたちを家族の一員として、温かく迎え入れ、子どもたちの心身の成長を支えていく「里親さん」についても関わっています。

子どもが家庭の事情により、家から学校や園に通えなくなったときに、子どもを受け入れてくれる里親がいれば、里親のもとから通学・通園することができます。里親が住んでいる地域にいれば、子どもは生活の変化が少なくて済むことから、気持ちの負担を大きく減らしてあげることができます。

播磨町では、現在2組の里親が活動しています。

里親制度には、「養育里親」「専門里親」「養子縁組里親」「親族里親」があります。この他にも、夏休みや年末年始、週末など1日から1週間ほど施設の子どもを預かる「週末里親」「季節里親」「ショートステイ里親」など様々な関わり方があります。たとえわずかな時間でも、一緒に季節の行事を楽しんだり、買い物をしたりという「家庭体験」が、子どもの成長を助け、将来子ども自身が家庭を築くときに大きな役割を果たします。

里親制度について、少しでも興味がある人は、ぜひ、お問い合わせください。

問 こども課家庭支援係
☎079-435-2362
問 里親支援センターゆーかり
☎079-438-1117
問 兵庫県中央こども家庭センター
☎078-923-9966

こども家庭庁ホームページ
里親制度について

楽屋裏

「はりま暮らしの便利帳」を令和8（2026）年度に発行します。町の魅力を満載し、暮らしに必要な手続きや関係窓口がわかりやすく掲載された保存版の行政情報誌です。

作成にあたり、広告掲載にご協力いただける事業者を募集します。㈱サイネックスの営業担当者が訪問しますので、ご理解とご協力をお願いします。

問 広告について㈱サイネックス姫路支店☎079-222-7630

Harima いいとこ検索　Vol.26

令和８（2026）年２月号

▲出初め式。日頃からの活動に感謝します

▶暦の上では大寒を迎え、一年で最も冷え込みが深まるこの時季、研ぎ澄まされた寒さがまち全体を包み込んでいます。凛とした朝一番の透明な空気を深く吸い込むと、背筋がピンと伸びるような静かな心地よさを感じます。寒の入りから９日目に汲んだ冷たい水は「寒九の水」と呼ばれ、清らかで霊力（冷力）があると考えられていたそうです。厳しい寒さで雑菌が繁殖しにくいので、「寒仕込み」のお酒や味噌、醤油などに欠かせないものとして重宝されてきました。また、「寒九の水」を飲めば、「薬になり、長寿を助ける」と言われていたそうです。寒さの中で育まれてきた昔の人の知恵ですね。寒さ極まる時節、くれぐれもご自愛ください。

▶１月11日、「二十歳のつどい」を開催し、人生の大きな節目を迎えた若者のみなさんをお祝いしました。晴れ着やスーツに身を包み、会場に集まったみなさんの引き締まった面持ちには、冬の冷気のせいだけではない、大人としての静かな決意が滲んでいるようでした。今年のテーマは「Odyssey（オデッセイ）」－古代ギリシャの英雄の長く困難な旅になぞらえて実行委員たちが決めたそうです。みなさんのこれからの長い叙事詩には、寒く冷たい不遇のときもあるかもしれません。でも暗い夜ほど星が煌めくように、困難の中には必ず希望があり、逆境を乗り越えた先にきっと素晴らしい光景が広がっています。それぞれの「Odyssey」を自分の歩幅、自分のペースで歩んでください。輝く未来をめざして！

▶また同じ日、加古郡消防協会の出初め式も行われました。底冷えする寒さの中、力強い号令とそれに呼応した規律ある動きに、地域の安心安全を支えるみなさまの冷気を吹き飛ばす熱い使命感が伝わってきました。寒空の下での昨年末の特別警戒、そして日々の消防団活動に改めて深く感謝申し上げます。

▶年が明け、慌ただしく時が過ぎていきます。「一月往ぬる、二月逃げる、三月去る」といわれるように、時間の流れが早く毎日があっという間に感じる時節ではありますが、だからこそ一日一日を冷静に丁寧に過ごしていきたいですね。新たな年度への準備もしっかりと進めてまいります。

▶ここでクイズです。この文章の中に「寒」と「冷」はそれぞれ何回出てきたでしょう？
ん？なんか前にも似たような展開が...

播磨町長　佐伯 謙作